

会 議 録

会議の名称	平成17年度 第3回西東京市環境審議会小委員会
開催日時	平成17年6月6日(月) 19時00分から20時58分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎横インゲビル3階 第3会議室
出席者	【委員】石部委員、一方井委員、保谷委員、伊藤委員、伊豆田委員 能智委員、中村(賢)委員 【事務局】山本環境保全課長、櫻井環境保全課長補佐、横山環境計画係主事
議題	1.開会 2.あいさつ 3.議題 ? 環境学習を支え推進するための基本的考え方について 4.その他 5.閉会
会議資料の名称	資料1 環境審議会小委員会での検討方向 参考 第1回・第2回小委員会が出された意見 環境情報項目事例
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録
会議内容	
<p>(19時00分開会)</p> <p>能智会長 本日は、ご多忙のところ、お集まりいただきありがとうございます。 ただ今から第3回環境審議会小委員会を開会いたします。 本日は大町委員が欠席との連絡が入っておりますので、ご報告します。 それでは、次第にそって会議を進めたいと思います。 会議次第の1、前回は会議録の確認についてですが、事前に事務局から送付されていると思います。何か修正部分等ございますでしょうか。</p> <p>伊豆田委員 9頁の一番下にある私の発言で、「以外」となっていますが、字の間違いですので「意外」に訂正していただきたいと思います。 同じ頁の下から3番目の箇所、「～ただ受講しているだけの人～」とありますが、表現が受講者に対して失礼なので、「受講を希望している方達だけなのででしょうか」と訂正していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>石部委員 7頁の上から3番目の発言箇所で「～児童・生徒に対応して～」とある部分は、話し</p>	

言葉としてはおかしいので、「～児童・生徒にとっても良いのではないのでしょうか。」と訂正していただきたいと思います。

伊豆田委員

もう一箇所、8頁の私の発言の中に「気合を入れて」となっている部分を「一生懸命に」と訂正していただきたいと思います。

能智会長

他になれば、事務局で公開の手続きをお願いしたいと思います。

続きまして、次第の2に移りたいと思いますが、その前に本日の資料について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

櫻井環境保全課長補佐

それでは資料についてご説明させていただきます。事前に郵送でお送りしたものと本日お配りした資料がございます。それでは資料1「環境審議会小委員会での検討方向」について、参考資料と一緒にご説明させていただきます。

(以下、資料1及び参考資料、当日配布資料に基づき内容説明)

能智会長

ただいま、事務局から資料1以下の説明がございました。

第1回・第2回の小委員会の議論内容と、各小委員会委員からいただいたご意見を参考に、資料1のとおり5項目に集約した形としてまとめたものとなっています。

では最初に、資料1の検討方向を5項目に分類したことについてご意見をいただき、その後、西東京市としての具体的な取り組みについて議論を進めてまいりたいと思います。5項目に分類したことについては、どなたかご意見はございますでしょうか。

伊豆田委員

この5項目については、よくまとまっていると思いますが、一番難しいのは の中で「総合的な視点」という言葉がありますが、よく使われる言葉ではありますが、一体何なのか良く分かりません。何か具体的に西東京市に答申するとすると、この「総合的な視点をもって取り組む」という言葉は、聞こえは良いのですが具体的な中身が浮かんでできません。やはり答申ですので、その市に合った実現可能な具体的なものを述べていかなければならないとする観点からすると、この は何をやっていけば良いのか分からないという点で、非常に難しいと感じました。

能智会長

この は、本日お配りした参考資料「小委員会が出された意見」の学校教育関係にある「環境教育の意識」に相当する部分ではないかと思います。

伊豆田委員

学習とか環境教育を総合的な視点で進めていくといったイメージであれば、何となく理解できるのですが、実際の取り組みとして誰が何を行えば総合的な視点をもって取り

組んだことになるのかというのは、非常に難しいと思います。環境学習の方向性として総合的な視点をもつことは大切なのですが、実際の行動として何を提言できるかは難しいと思いました。

能智会長

の1行目にも記載されているとおり「環境学習で取り扱う内容は、大気や水、みどり、ごみといった身近なものから～」とあるように身近なものからより大きな環境問題を取り扱っていくといったイメージだと思います。

櫻井環境保全課長補佐

例えば、小学校ですと前回お話しした「kids ISO」がそれになるのではないかと思います。家庭の中で身近な電気、ガス、水道の使用量から始まって、その後は初級・中級・上級と段階を踏んで取り組みを進めていくことになるので、イメージに近いと思います。

石部委員

資料1の から までの項目がありますが、順序は何か特別の意図はあるのでしょうか。

櫻井環境保全課長補佐

順番に対しては、特別な意図はございません。

石部委員

もし意図がないとすれば、むしろ順序として各項目を捉えるとすると、最初に総合的な視点、次に個々の具体的な内容、最後に様々な連携とした方が良いと思います。総合的な視点をもって取り組むというのは、特定の環境問題だけを扱うといったことではなく、私たちの住んでいる環境全体が、あえて言えば歴史といえますし、以前と比べて急激に環境が変化していった悪い方向に向っていると考えています。そういった意識をもち、何が急に变化していったのか具体的な例を挙げる、といった順序で考え、総合的に見てどうして環境が変化していったのかを子どもから大人まで認識し、それを突破口として全体の变化を歴史のように時系列的に表現していければ良いのではないかと思います。

一方井副会長

それらを取り組むにはかなり時間がかかると思います。

石部委員

確かに、全てを実行するには時間がかかります。私としては、先ほど述べたものを提言という形で表現した場合に、そんなに難しくないのではないかと考えています。

伊藤委員

いまのところ から まで是对等に並べられていますので、うまく順番付けをして「起承転結」をつければ良いのではないかと思います。さらに として、情報の提供な

ども必要ですし、目的や内容を整理していけば良いと思います。

中村(賢)委員

少し違った視点から申し上げますと、この考え方が抽象的な感じの提言で終わってしまいそうですが、何か目標というものが個々の教育・学習に必要なのではないかと思います。期間を区切るとか、数値的な目標を掲げるとか、その環境教育によって目標を達成できるものを提言として入れていくべきではないかと思います。

一方井副会長

西東京市独自の答申を考えることは難しいと思っています。世の中は環境に対しての学習が具体的に進んでいますので、独自の答申を作るのは大変であると感じています。

能智会長

これまでのお話でみなさんも必要性は感じていると思いますが、具現化したものから抽象的なものへ興味をもたせていくといった観点は、委員のみなさんも感じていると思います。

あと、 から の項目については意識的に順番を考えた方が良いのではないかと思います。さらに、何をどういう形で達成していくかということ、これらの項目を踏まえて目標として入れていくことになるかと思っています。

保谷委員

参考資料で配られた情報の資料などは、教育の中で使用していても数字やグラフでは子どもは興味を持たないと思います。でも「体験的・実践的に進める」とあるように、私たちが生活をしていて実感することは、例えば、連休明けのごみの量を見て「こんなにゴミが沢山あるんだ」と実感できると思います。数字で何トンと見せられても実感はありません。実際に視覚的なものから入ることができれば、実感できます。最近ではテレビでよく実験をしている人がいますが、学校の副教材でもそういったアイデアを利用できるのではないかと思います。

実際に環境教育は、教えるだけでなく、結果的に「こうなった」というものがあって始めて実感が湧いてくると思いますので、環境教育の手段としては良い方法ではないかと考えます。

石部委員

西東京市独自の環境の日をつくって、集中的に意識付けできる状況を考えれば、それが西東京市独自となると思います。日本の場合は色々なところで環境教育が実際に試みられていますが、必ずしも十分に根付いているとは言い難い状況です。ただし、相当色々なところで意識的に環境教育を実施しているので、西東京市独自のものは、それらと違ったものを出していかなければならないというような脅迫観念に駆られることはないと思います。

住んでいる市民が、具体的に環境が悪化してきている、何とかしなければいけない、という気持ちを起こさせるような事が、一つの環境教育の出発点ではないかと思います。日本は幾多の環境汚染などを経験して、今は環境の改善に努力するようになりました。私たちは環境が変わってきている、このままではいけないとする危機意識を、環境

教育を通して持っていくことが大事であり、そこから一歩進んで、他の地域で起きている環境汚染も他人事ではなく地球全体のことでありと意識させることを目指していくことが、環境教育の目的になるのではないかと思います。

中村(賢)委員

それに関連して6月が環境月間になっていますが、市民団体が連携してアースデイを実施しております。これは本来4月に開催しているものなのですが、合併後は色々あって今年は10月に開催しています。このアースデイの話を市長にお会いする機会があってお話ししたところ、市長は気に入りまして、市と共催して開催したいとまでおっしゃっていました。このように市民と行政が一緒になって事業が実施できれば、それを一つの目標として色々な活動ができるのではないかと思います。

能智会長

これまで出された意見の中で、資料1の から までの項目の順番は、変えてしまっても良いのでしょうか。

事務局

変えても問題ありません。

能智会長

あと、西東京市独自のものということですが、提言の中で独自の施策などを入れるのは難しいと思うので、環境月間やアースデイの開催をきっかけに環境を考えてもらう日、週、月などを設定して提言していけば良いのではないかと思います。

中村(賢)委員

西東京市独自の政策は無理かもしれませんが、西東京市独自の環境の問題があると思います。例えば、大気汚染というのはかなり深刻な問題であると私は捉えています。環境保全課はあまり問題視したくないというのがあるのですが、市民全体としては大きく捉えているわけです。ですから、私としては西東京市独自の環境問題というのを捉えて、それを学習してどう対応し、改善するかが一番必要だと思います。一般的なことを環境学習するよりも、西東京市独自の問題を学習することが必要ではないかと思います。

伊豆田委員

実際に問題点はピックアップされているのですか。

中村(賢)委員

本日は資料を持ち合わせておりませんが、環境保全課でもその点は十分、承知していると思います。西東京市は幹線道路が多いところなので、そこでのNO₂の汚染度というのは、多摩地区では環境基準を上回っている瑞穂町と同等の悪さであります。われわれ市民団体では、年間2回300箇所ほどの調査を10年以上実施しています。東京都だけでも1万3千箇所の調査を実施しているのですが、その数字が生かされていないのが、私は1番の問題だと思います。隣の武蔵野市では環境白書に載せていますし、西東京市

では何で取り扱わないのか、そこに環境の問題を行政として本当に見る気があるのか、それを私は強く訴えたいです。多くの市民がそう感じています。そういったところから環境学習が始まるのではないかと思います。

櫻井環境保全課長補佐

以前からの審議会でもお話をさせていただきましたが、武蔵野市の場合に調査が条例に位置づけられておりまして、市から委嘱を受けた市民の方に測定をお願いしているところでございます。ですから、どういう場所に設置してといった一定の研修を受けた上でお願いしていますので、市の1事業として位置づけられているものでございます。実際に西東京市でも市民団体の方が実施されていて、その中での研修も実施していると思います。また、1年に2回の測定日を設定して実施していますが、その1日だけを測定するものですので、実際には大気は365日動いているものでございます。市民の方達が自主的に測定を実施することは環境学習で大変重要なことなのですが、その数字をもって西東京市の大気が悪いかということに結び付けてしまうのは、難しい部分であるということはお話させていただいたと思います。

中村(賢)委員

大気汚染問題などは、同じ方法で比べて、他と比べて比較することが1つございます。経年的に調べた結果として悪化しているという状況を見ますと、それだけを使わなくても市は取り上げるべきではないかと思います。

櫻井環境保全課長補佐

東京都は、365日1時間ごとの数値を測定しています。そうすると、その日によって値が高い、低いが出てきて、まちまちになります。

中村(賢)委員

それは市内に何箇所あるのですか。

櫻井環境保全課長補佐

市内には自動車排出ガス測定局として2箇所ございます。

中村(賢)委員

しかも屋上などに設置していわけですが、決して人間の住む場所ではに設置はしていません。そこら辺が市民感覚とずれているのです。

山本環境保全課長

都は、外部から機器をいたずらされないような場所に設置しています。

中村(賢)委員

それは分かりますが、実際にはそれだけではないのだということです。

山本環境保全課長

こちらが言っていることは、片方は1年間測定して、片方は1年間に2回の測定をし

ているという状況があるので、これらを平均して良いものかどうかという問題があります。また、他市と比べた部分では、確かに基準の上限は超えているのですが、微量の数値差で西東京市が浮き出てきているわけであります。今、中村委員の話を知ると、西東京市が大変悪くて他が良いように聞こえてしまうのですが。

中村(賢)委員

北原交差点のような特別な場所は、本当にひどい要素があります。

山本環境保全課長

それは分かります。では、そこを通行する車を止めることができるかといえば、止められないですね。

中村(賢)委員

それも分かりますが、西東京市の問題としては「大気汚染もある」ということを市民に知らせるべきだと思います。

山本環境保全課長

その点に関して、市民は新聞などの報道でご存知なのではないかと思います。ラジオでも北原交差点の渋滞情報は常に流れていますので。

中村(賢)委員

それらを抜きにして、環境白書を出したり、環境の問題を論じることは、私はおかしいと申し上げたいのです。

伊豆田委員

私の質問の仕方が悪かったのかも知れませんが、今の議論は環境学習には無関係です。私が聞いたかったのは、実際の西東京市に、具体的に深刻な問題があってピックアップされているのかということを知りたいのです。例えば、川の水質の問題であるとか。もしなければ、それらの問題を探すと自体も1つの環境学習になると思います。ピックアップされているものがあれば、それに対して市民の方がどう取り組むかということを実践的に提言することが良いのではないかと考えてお聞きしたのです。何かあるのでしょうか。西東京市は他の市に比べて、特有なことがあれば教えていただきたいのですが。

山本環境保全課長

市内には川が3本ありますが、そのうちの2本は汚い状況で、暗渠になっています。1級河川としては石神井川がありますが、西東京市の部分は、普段、川に水量がなく、大雨が降ると雨水が流れ込んでくるといった状況です。

伊豆田委員

水の問題と先ほどの大気の問題、あと土壌汚染の問題はないのでしょうか。

山本環境保全課長

土壌汚染に関しては、市内に大手工場が3社ありますが、住友重機械工業で工場閉鎖後の調査で土壌汚染が確認されたので、土壌改良を実施し、現在は浄化されてマンションと戸建の住宅が建設されています。

伊豆田委員

先ほどの大気汚染とか、市で抱えている問題に対して、みんなで解決する取り組みをすすめることが、市としては一番独自のなるのではないのでしょうか。

山本環境保全課長

現状でいえば、大手工場が撤退した後に大型のマンションが建設されることによって、人口が増加し、それによるごみの増加、学校の児童数が増加するといった状況になっていくと思われます。あと、東大農場の問題も今後の課題となっています。

中村(賢)委員

緑がなくなっていくというのは現実です。

山本環境保全課長

確かに工場があった時と比べると緑は減っていますが、後に住宅やマンションなどが建設されていますので、そこに庭木は植えられています。

中村(賢)委員

そうではないと思います。三共のところは完全に緑がなくなっていますから、大きな問題です。北町の屋敷林もなくなっていますので、私は相続の問題が一番大きいと思います。

山本環境保全課長

それは西東京市だけの問題ではありません。

中村(賢)委員

現在の市長は、相続の問題を先頭に立って国に働きかけると言っています。私は、この問題は西東京市にとって大きな問題であると思います。

石部委員

ただ、今のお話を環境教育にどうやって結びつけていくのでしょうか。

中村(賢)委員

私は、現実を見たうえで教育というものが必要ではないかということです。

石部委員

おっしゃる通りなのですが、現状を見る時の見方が問題です。例えば先ほどの大気汚染の場合も、答申として出す場合には客観性や科学性など、他から見たときに耐えられる内容でないと、「何となく感じています」とか「任意の人がボランティアでやっています」といったものが絶対的な資料やデータになるかといえ、必ずしもそうではあり

ません。一つの参考にはなるかもしれませんが。ここでの環境教育といった場合、もう少し視点を客観的に耐えられるような形で、なおかつ西東京市独自の環境教育といった視点から、西東京市自体の歴史の変化が非常に激しい中で環境がどう変化しているかを踏まえて、様々な問題を考える上での視点になるのではないかと思います。

歴史的な流れを踏まえて、最近の急激な環境変化と対比しながら教育していくことも一つの方法であると思います。

保谷委員

私は「総合的な視点で取り組む」というのは、ルールを守ることではないかと思いません。今はそれが出来ていません。環境もルールだと思います。それから考えると「総合的な視点で取り組む」のは大人の取り組みではないかと思いません。そうだとすると、やはり具体的な内容を考えていかなければなりません。これまでの話を聞いていると、いつまでたっても進まない感じがしたものです。

伊藤委員

実際に施策としては、どこまで取り上げたらよいのでしょうか。

体験的、実践的に進めることは大事であるとする形で答申して、西東京市として受けていただく。その後の具体的なことについては市の内部で検討されるべき性格のもので、我々の小委員会は学校などで実現すべきであると提案する形でよいのではないのでしょうか。

能智会長

「こういうことを西東京市としてやっていきましょう」というようなことを考えていけば良いと思います。詳しい内容については、7月以降の審議会での議論になると思います。

櫻井環境保全課長補佐

一般的な部分は、行政側で「こうした方が良い」とするメニューを書くことができます。ただ、実際に西東京市として実践することができるのかということが行政だけでは分からない部分があるというのが本音でございます。そこで各主体として、ご参加いただいている委員のみなさんから、具体的な関わり方などの一歩踏み込んだご意見をいただいて、提言における具体的な取り組みの手法を探っていきたいと思っております。

石部委員

先ほどの繰り返しになってしまいますが、地域の歴史を通しての環境教育を行うことが、「総合的な視点」の具体的な取り組みではないかと思いません。それらを踏まえて、次に体験的、実践的な取り組みを進めることは学校教育の中で取り入れることは可能ではないかと思いません。さらに環境月間などと連動させることによって、子どもや親、教員などの人たちが取り組み易くなるのではないのでしょうか。これらも具体的な例示になると思います。

一方井副会長

歴史の話ということでいえば、旧田無地区で農家の方が昔の話を知っていますし、資

料館を利用して、子どもたちに歴史を伝える手段になると思います。

中村(賢)委員

石部委員の歴史に結びつけてということで、余談なのですが、旧田無で郷土カルタというものがありません。その「あ」の部分で、「暴れ川、今は静かな石神井川」というのがありまして、まさに歴史的な状態を表しているものです。昔との関係は環境を見るうえでは重要ではないかと思います。

保谷委員

ちょっと話が変わってしまいますが、私は農業講座を公民館で実施しています。当初は農業だけをやっていましたが、一昨年から農業を環境問題の視点から捉えて話をしてもらうということで、環境問題を扱っているNPO法人に依頼をして、農家からは離れた視点で話をしてもらっています。その中で、もし学校で環境NPO団体に環境の授業を依頼ができるのであれば、非常におもしろいことをやってくれると思います。

その1例として、ホンダを退職した人達のグループで「環境ワゴン」というNPOがあります。私達は在来の大豆を作って豆腐づくりを行っていたのですが、豆腐作りには買ったにがりを使用していました。そこで同じNPO法人からの紹介で「環境ワゴン」でにがりを作ることを教えてくれるということで、今では大豆もにがりも手作りで豆腐を作っています。

環境問題を扱うNPOはいくつもあると思いますし、楽しい実験などのノウハウを持っていますので、そういった団体を発掘してお願いすれば、かなり楽しい授業になると思います。

伊豆田委員

一つ質問ですが、先ほどの伊藤委員と同じ質問かもしれませんが、一番肝心なことは小委員会でもどこまでやるかということだと思います。細かい提案などは、全体の審議会でやるのか、この小委員会で細かい提案を含めて全体の審議会に持っていくのか、どちらなのでしょう。

山本環境保全課長

資料1の5つの項目について、具体的な例示があれば委員のみなさんからご提案いただいて、それをまとめたものを全体の審議会で審議していただこうと考えております。

伊豆田委員

そこまでやるのは、相当大変なのと、全体の審議会委員の方達は何をやることになるのでしょうか。小委員会でまとめたものを承認するだけなのでしょうか。私はそうではないと思います。小委員会では検討方向を決めて、各項目の内容については全体の審議会で審議していけば良いのではないかと思います。小委員会で細かいところまで審議してしまったら、全体の審議会で何をやるのかということになります。

櫻井環境保全課長補佐

全体の審議会で細かい部分を審議していくと、時間がかかってしまいますので、この小委員会である程度の柱立てしたものを、全体の審議会で審議していくところま

でを考えていました。

伊豆田委員

では、検討方向の5項目の空欄を埋めていくところまでが、この小委員会で考えなければいけないということでしょうか

山本環境保全課長

結論とまではいかなくとも、何かしらの提案がいただければと思います。

能智会長

次回の審議会に向けたこととしましては、資料1にあります5項目についてのご提案を委員のみなさんから事務局にご提出いただき、合わせて、これまでの議論や発言を踏まえたものとしての方向性を、次回、事務局で作成していただいて、小委員会委員のみなさんに最後のご意見をいただきたいと思います。

最後に次第の3、その他ということですが、事務局から何かありますでしょうか。

山本環境保全課長

特にございません。

能智会長

特になければ、これで第3回環境審議会小委員会を終了したいと思います。

次回の第4回は、6月27日(月)の午後7時から、場所は本日と同じイングビルの3階になります。お疲れ様でした。

(20時58分閉会)

以上